

114  
A 4112



古社寺維持方法の儀并伺

府縣管領費増額古社寺保存の儀并定歲十二月  
廿五日付於令之者方之由交右維持の方法は種別  
不才隨テ費全支出方モ尋常管領費ト異ナリ申  
方之由交方全國管領費の社寺ヲ普ク維持セントス  
費額之ケ年或萬兩ノ能ク洽及スル所ニアラス身其  
後年度殘金並分振立に依テモ如何御裁可也如  
處官費而已に依ラステ夥多し舊觀ヲ永久ニ保持ス  
ルニ特殊之處置無之テハ不稱儀也別紙内規ニ如  
ク方法ヲ直接間接各途ニ大別シ其輕重厚薄多少  
等審議酌量難已場合ニ於テハ彼社流用お路儀  
適宜之處分被成る自然府縣管領費ノ名義

大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄贈



三 右方法施設差支并後モ方之并ハ、單ニ古社寺保  
存書ト成ル様致被書開極維持方法ハ於種ノ類  
別モ方々ノ得共差向キ金額ノ關係並分而巳大意ヨ  
別記ニ一應法認可ヲ仰キ置度然取付也

年 月 日

内務卿

大政大臣殿

社寺保存内規

第一則 保存ヲ要スル種類

第一項 保存ヲ要スル箇所ヲ分テ七種トス

第一種 四百年以前創立スル社寺

第二種 史乘中掲載ノ社寺ニシテ名蹟古跡

ト稱スルキモノ

第三種 境内風致秀麗麗ニシテ國郡ノ美觀勝

地ト稱スルキ社寺

第四種 皇室御崇敬スル武門ノ帰依寺ニシテ

若子ノ朱墨印地ヲ有セシ社寺ニシテ維  
新愛草ノ後維持ノ方法立テ難キ

モノ

第五種 神體佛像ノ有無ニ關セテ記念等ノ

為メ建設セシ碑石塔龕ノ類ニシテ神  
佛ニ緣由アル古物

第六種 陵墓其他賢相名將等ノ古墳其  
境内ニ屬シタル社寺

第七種 勅願若シクハ王子宮嬪賢相名將等ノ  
發願ニ由リ執行セル式法年中行事中  
ニ傳來シタル社寺

第二則 保存金支給ノ方法

第二項 神官住職信後檀徒等ヨリ府縣廳ヲ經由  
シテ出願スル者ハ先ツ神社區別帳社寺明細帳並  
地志歴史等諸考證ヲ案據シ第一則記載ノ何種  
類ニ屬スルカヲ考定シ又其請求額ノ適否ヲ精査  
シ或ハ其金額ヲ給シ或ハ其幾少ヲ給スル者ヲ審

議シテ下行ス

第三項 第二項ニ記シタル請求ノ内現時修繕若シク  
ハ再建ノタメ仕拂フヘキ目論見高ヲ以テスル者ト將來  
保修ノ為メ資金積立ノ方法ヲ定メ其ノ成ヲ以テ  
スル者トノ別アリ是又第二項ニ記シタル如ク諸勘査  
ニ當リテ評決ス

第四項 出願セサル者トイハレ區別帳明細帳ニ就テ考  
按シ若シクハ徵古上ヨリ發見シ保存ヲ要スヘキモノハ其  
現時ノ景状如何ヲ審問調査シ其維持方法ヲ考  
究シテ給與スル者モアルヘシ

第五項 第一則ニ記シタル種類ニ適スル社寺ニシテ一時  
弛滅ニ至ラントセシ者神官住職等ノ盡力ヲ以テ  
官給ヲ仰カス若シクハ之ヲ仰クモ僅少ニシテ再營

修繕ノ成功ニ至ル如キハ其報勞トシテ該盡力者  
不時ノ賜金アルヘシ

第六項 官社ニ列スヘキ由緒傳記アリト雖モ其出願ノ  
時ヲ失ヒ府縣社以下ニ列シ他ノ權衡ニ適合セサル神社  
ハ毎年若シクハ式年大祭等ノ節奉幣料ノミナ  
給與シ官社ニ准擬ス

第七項 寺院大本山大寺等ニ於テ堂宇再建修  
繕ノ節勸進祈願ニ為メ開設スル法會等者之  
節ハ時々ノ詮議ヲ以テ寄附金ヲ附與ス

第八項 第二項第四項ニ記スル金負ノ支給ハ地方官  
ニ下附シ其仕拂ヲ監査セシム

第九項 第五項第七項ニ記シタル金負ノ支給ハ地方  
官ノ請求ニ係ル者ハ該地方官ヲシテ下達ニシメ各ラ

ナル者ハ直達若シクハ傳達時々ノ評議ニ任ス

第十項 第六項ニ記シタル金負ノ支給例年定ムル分  
ハ地方官ハ豫達シ置キ國幣社幣帛料日攝取  
扱費メ其時々ノ詮議ニ係ル者ハ直達若クハ傳達  
時々ノ評議ニ任ス

第十一項 保存資金中、附加スト現時仕拂金ト共  
スト其他ノ名義ヲ以テスルモ金額五百圓至滿ル者ハ  
内務卿之ヲ專決シ五百圓以上支給スル者ハ時々其  
理由ヲ詳記シ上裁ヲ經テ没行ス

第十二項 社寺等新規ノ建立ニ係ル請求ハ一切該金ヲ  
以テ補助スルノ限ニアラス

第十三項 第三則 保存金支出ノ目的  
貳萬圓ノ内譯ヲ左ノ三項ニ分ツ

第一

金壹萬七千圓

第三項ニ記シタル修繕再建等現時支拂金  
並ニ保存資金補助等直接維持ノ支給  
金トス

第二

金貳千圓

第五項第六項第七項ニ記シタル間接維  
持支給金トス

第三

金千圓

本法施行ニ伴社寺局業務外官負旅  
費并ニ考證等ノ為メ時々雇ハ人員給  
料トス